



## 経営の散歩道

川中経営所長 川中清司

▼川中経営の職員の中に、今年の亥（い）としての女性が三人いる。

ハンドボールの国体選手だった辻としみ、三月のひな人形の顔そっくりの水島道江、対応が明るく笑顔のよい清水よし美。いずれも二十三才の娘さかり。

一つの家に同じ千支（えと）がそろう年は良いことがあるという。大いにあやかりたい。

▼彼女らには次の共通点がある。  
・分担企業の計理や税金の事務をコンピュータで手ぎわよくさばく。

・マイカーで通勤し自由に走り回る。

・スポーツや音楽が好きで性格が明るく行動が軽やか。

・独身生活を楽しんでいるが固執せず、結婚にも前向き。

大雪が降ってもへっちゃらで、スキーができるのはしゃいいでいる。

こうしたOLの姿からは、その消費支出が景気の良し悪しに左右されるとはとも思えない。▼ところで近年の大型店の売上は振わない。

百貨店の売上をみると、九一

年は前年比でプラス三・八%だったが、不況と同時にマイナスとなり、九二年は△三%、九三年△六・二%、九四年△二・六%となっている。

不況で残業手当などが減り、世帯持ちの消費支出が慎重になり、企業の贈答品や高額品が減ったのが原因。

▼企業の3K経費は景気の良し悪しに深いかかわりをもつ。

交際費・交通費・広告費の3



K経費のいずれも、不況時にはダウンする。

交際費Ⅱバブル期には高級料亭やバーも盛況で、商取引の拡大に伴って毎年一〇%以上も増えつづけ、九〇年には五兆六千億円にふくらんだ。しかし、九二年以後は不況で減っている。

国税庁の調査では、九四年六月までの一年間に調査した五〇七社から見つかった「使途不明金」は五三〇億円で、前年より

一〇・九%も減った。

出張旅費なども回数へらし新幹線もグリーンから普通に下げる。飛行機もビジネスクラスからエコノミークラスに落とす。ハイヤー会社の企業利用が大

きく減り、売上はひと頃の半分以上となった。

▼好況のときには新聞折り込みの量も増え、TVの広告料金も値上がりする。

広告費は八〇年代後半には毎年一五%の上昇をみせ、九一年には六兆円に達した。

しかし平成不況で不動産の広告や求人募集もめっきり減った。大手二社（電通・博報堂）の

広告取扱い高でみると、九〇年

## 第八十一回

### 景気の波

その3

に一兆八五四七億円あったが、九二年で一兆七一一四二億円、九三年では一兆六四七三億円と次第に落ちこんでいる。

▼自動車の新車の登録台数は、九〇年九月から前年同月比でマイナスに変わった。

九〇年は五〇九万台であったが、九一年は四八〇万台、九二年は四四〇万台、さらに九三年は四一五万台と次第に減ってきている。かつてのオイルショック

や円高不況のときにもなかった現象だ。

しかし耐久消費財には三〜四年の波がある。不況で我慢していた自動車や家庭電化用品も今年あたりが買い換えの時期にきている。

▼景気と人間の心理も深いつながりがある。

放火による火災も景気と関係があり、不景気になると増えるらしい。

東京消防庁の管内で発生した放火の火災件数は、九三年には二六四五件で過去最高となり、平成不況の深さと比例している。

さくら証券の宅森昭吉氏の調べでは、九四年の秋に入って件数が減り、景気の下げどまりと符合しているという。

▼不況にもめげず日本専門店会連盟のクレジット売上は伸びている。

九三年度の総取扱高は四九六八億円に達し、対前年比で九一年が八%、九二年が一〇%、九三年が二%の毎年増となった。

全体の五一%は北海道で売り、東北二一%、九州一五%で、いずれも地域住民の買物支持率が高い。たとえば北海道では、日専連の加盟店が八〇%を占める市もあり、東北では市民マラソン大会や各種イベントなど、住民に密着した活動が信頼を築き、売上の伸びを支えている。